

わおん 通信

2026
vol.56

2025 おもしろ環境まつり



CONTENTS

P1 - P2

おもしろ環境まつり2025開催
「温暖化防止活動推進員養成講座」を開催しました(全3回)

推進員訪問記

P3

県情報
電気自動車 (EV) について

P4

なるほど ザ・ワード
INFORMATION

おもしろ環境まつり2025開催

開催日：2025年12月20日
主催：おもしろ環境まつり実行委員会
場所：海南nobinos・海南市保健福祉センター

今年も「おもしろ環境まつり」を、海南市の海南nobinos（ノビノス）をメイン会場として開催しました。本イベントは、環境啓発に取り組む市民団体、企業、自治体などの協力を得て毎年実施しています。9回目となる今回は、体験型プログラムを中心に37のブース出展のもと、約1,200人の参加がありました。

会場には、手回し発電機を使った発電体験、ヒノキの丸太をのこぎりで切るコーナー、親子でソーラーカーを作る工作教室、気象・海ごみ・食品ロスについて学べる展示コーナーなど、多彩なブースが並びました。「エネルギー」「食べものと水」「ごみゼロ（3R）」「生き物（生物多様性）」「気候変動」「防災・減災」の6つのテーマのもと、こどもから大人まで、楽しみながら学べるイベントとなりました。

また、こどもたちが夏休み中に取り組んだレポート「わかやまこどもエコチャレンジ」の入賞者表彰式も行われました。入賞した活動レポートの内容について児童へのインタビューもあり、来場者の皆さんも熱心に耳を傾けながら表彰式を見守っていまし

た。さらに、今回ゲストとしてお招きした和歌山市出身のお笑い芸人、安田大サーカス・HIROさんの明るいトークで、会場は大いに盛り上がりました。

お孫さんと来場された方は「実際に体験することで大変勉強になります。ぜひ続けていってほしいです。」と話していました。また別の来場者は「こどもがすごく喜んでいて、帰りがらないほどです。来てよかったです」と笑顔で話していました。1時間以上かけてエコバッグに絵を描いたお子さんは「楽しい！終わりまでできるだけ全部のブースを回りたい」とコメントしていました。



エコチャレンジ表彰式

ブース出展者からも、さまざまな感想がありました。エコバッグづくりブースの担当者は「こどもたちの発想力には驚かされます。環境に興味を持つきっかけになればうれしいです」と話し、手回し発電機ブースの担当者は「電気の仕組みについて楽しく学んでもらえたと思います。私たちも教えていて楽しかったです。」と振り返りました。また、梅の種を炭にする研究を紹介するブースの担当者も「毎年出展していますが、今後も3Rと生物多様性をPRしていきたいです」と意欲を示していました。

今後、気候変動がますます深刻化するおそれのある中で、環境への関心が高まってくることが予想されます。「おもしろ環境まつり」では、こどもたちが体験を通じて、環境活動の「楽しさ・おもしろさ」を知ることが大切になっています。今後も、環境問題を自分事として捉え、行動できる大人へと成長していただけるよう、こうした体験の機会を増やしていきたいと考えています。



ヒノキの丸太切り



布のコースターづくり



ソーラーキット工作



文：NPO法人わかやま環境ネットワーク 黒井

「温暖化防止活動推進員養成講座」を開催しました(全3回)

開催日：2025年11月8日、12月14日、2026年1月17日
主催：和歌山県地球温暖化防止活動推進センター
場所：和歌山市・田辺市・橋本市

2025年度の「温暖化防止活動推進員養成講座」は全3回（3会場）を実施しました。会場参加とオンライン参加を合わせ、今年度は延べ50名の受講がありました。

田辺市会場では、午前は講義で温暖化対策の基礎や最新動向を学び、午後はグループワークで、企業・行政などの役割を担いカーボンニュートラルな社会を目指すカードゲーム「2050カーボンニュートラル」を実施しました。参加者同士が交渉しながら経済活動とCO₂排出削減策を選び、自分の行動が社会・環境へ与える影響を確かめつつ、2050年カーボンニュートラルへの道筋と協働の重要性を“自分ごと”として考えました。アンケートでは「楽しみながら学べた」「仲間づくりができた」「環境への取組が経済成長につながると学べた」「協働の大切さが分かった」など前向きな声が寄せられました。



講義(気候変動講座)の様子【田辺市】



グループワークの様子【田辺市】

文：NPO法人わかやま環境ネットワーク 事務局

推進員さん ひよっこり 訪問記

第2期 中川皓次 さん(紀の川市)

今回の推進員訪問記は、紀の川市にお住まいの第2期推進員である中川皓次（なかがわ こうじ）さんをご紹介します。中川さんは、環境省に登録された環境カウンセラー（市民・事業者部門）としても活動されています。

中川さんは学生時代を大阪で過ごした後、大手ゼネコンに就職し、建築士として関西圏を中心に市街地開発やビル・マンションの設計・監理、施工管理業務に約8年間従事されました。30歳という節目の年に故郷である紀の川市へUターンし、現在は家業の建設会社を運営されています。経営者の視点を生かしながら、脱炭素対策としてカーボンニュートラル・アクションプラン（CNAP）の実践に取り組まれています。

地球温暖化防止活動では、紀の川市地球温暖化対策協議会「エコネットきのかわ」の代表理事を務められています。自治体の長期総合計画への地球温暖化対策に関する提言や、市民まつり・環境イベントへの出席などを通じて、市民にCO₂排出削減の呼びかけを行い、脱炭素社会の実現に向けて尽力されています。

こうした活動の原点には、日本青年会議所（JC）での経験があります。1990年代後半にケニア、コートジボワール、モーリシャスなどのアフリカ諸国を訪問し、国際的な環境運動の一環として開催された「MOTTAINAIセミナー」の司会を務めたことが大きな転機となり、40歳でJCを卒業後は、その経験を地域に還元したいとの思いから、現在の環境活動へ携わっています。

現在は、建設現場での産業廃棄物の削減やリサイクル、CO₂排出量およびエネルギー消費の抑制、古民家の再築や断熱・遮熱技術の活用、環境に配慮した製品を購入する「グリーン購入」の推進などに幅広く取り組まれています。今後も建築士・環境管理責任者として、設計から施工、維持管理に至るまで、建物の生涯を通じたCO₂排出量（LCCO₂）の低減を進めていきたいと、意気込みを語ってくださいました。



電気自動車 (EV) について

知っているようで、意外と知らない電気自動車のこと

カーボンニュートラルへの対応策の一つとして、走行中にCO₂を排出しない電気自動車が注目されています。あらためて電気自動車のことを考えてみませんか。



写真提供：日産自動車

電気自動車とはどんなもの？

電気自動車とは、ガソリンを使用せず電気で動く自動車のことです。バッテリーに貯めた電気でモーターを動かし、タイヤを駆動させます。走っているときにCO₂が発生しないので、環境負荷の低減に貢献するクルマといわれています。

電気自動車は航続距離が不安かも？どこで充電するの？

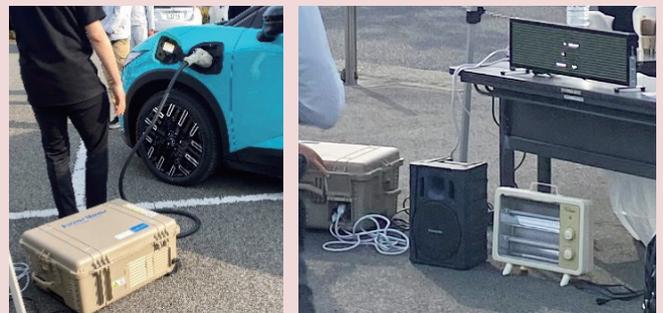
ご家庭で使用するクルマの1日の平均走行距離は30km以下の方が多いため（日産自動車調べ）、満充電で180km（WLTCモード）走る、軽の電気自動車は日常使いに十分な航続距離があります。

なお、普通車タイプの電気自動車は、軽タイプよりも大きなバッテリーを搭載していますので、航続距離は300km以上と、さらに長くなります。

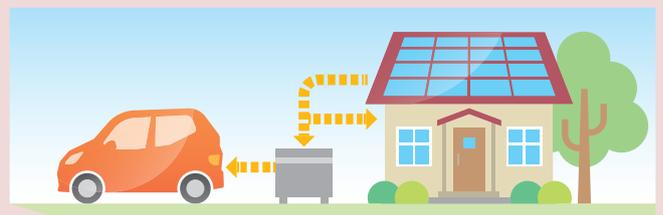
電気自動車は、自宅で充電することができるので、夜寝ている間の充電で朝には満充電で出かけることができます。また、外出先では自動車販売店、高速道路のSA/PAや道の駅、コンビニ、商業施設などに設置されている急速充電器の利用ができより早く充電することができます。

電気自動車は「電池」にもなる！？

電気自動車の大きなバッテリーは、蓄電池として活用することができます。停電時には非常用電源として使用することができます。例えば、78kWhのバッテリーを搭載した普通車の電気自動車では、一般家庭の約6日分の電力を供給することが可能です。（日産自動車試算値）ご自宅に太陽光発電を設置している場合には、電気の余剰分を貯めることができるので、エネルギーを有効に活用できます。また、自動車から電気を取り出して家電製品を使うことができる外部給電器（V2L）を使うことで、災害時の電源になるだけでなく、キャンプなどのレジャーでも使用することができます。



V2Lによる電気自動車(左)から家電製品(右)への給電の様子



電気自動車購入補助金制度

環境性能に優れた自動車の購入を支援するため、補助金制度があります。国の補助金制度については下記URLを参照ください。

一般社団法人 次世代自動車振興センター
<https://www.cev-pc.or.jp/>



執筆協力：日産自動車 株式会社



「デコ活」って?



「デコ活」とは、二酸化炭素(CO₂)を減らす「脱炭素(Decarbonization)」と環境に良い「エコ(Eco)」を組み合わせた「デコ」に、「活動・生活」を合わせた言葉で、「脱炭素につながる新しく豊かな暮らしをつくる国民運動」の愛称です。一人ひとりの日常の取り組みが、地球を変える大きなうねりとなる「バタフライエフェクト」をイメージし、「デコ活」では蝶のデザインが採用されています。現在は、この「デコ活」を推進するため、企業・団体や個人に向けて「デコ活宣言」を呼びかけています。2025年12月10日時点では、全国で組織(企業・団体)3,609件、個人13,698件の宣言が寄せられています。

和歌山県地球温暖化防止活動推進センター(NPO法人わかやま環境ネットワーク)も、2024年7月に「デコ活宣言」を行いました。家庭・店舗の省エネにつながる断熱化の推進をはじめ、食品

ロスの削減や、コンポスト普及による生ごみの削減に取り組んでいます。また、アースデイやマルシェ、地元サッカーチームの試合会場など、県内各地のイベントでリユース食器やマイ食器の導入支援を行い、使い捨てごみの削減にもつなげています。情報発信の面では、「わおん通信」や公式LINE、SNSを通じて、県民の皆さまに具体的な実践方法を紹介しています。あわせて「おもしろ環境まつり」などのイベントでは、デコ活につながる事例紹介や体験の機会を提供しています。さらに、一般財団法人和歌山環境保全公社と連携し、「食」を中心とした出来事をもとに「暮らし」を考える、コンポスト講座などを行っている「和歌山 食と暮らしプロジェクト」の運営にも携わっています。県は「2030年度までに温室効果ガス排出量を2013年度比で46%削減する」という目標を掲げており、目標達成に向けて県民一人ひとりが参加できる取り組みを、より具体的に進めていきます。

文：エコネット紀中 櫻村

INFORMATION

うみわかまもるプロジェクト 「うみわかまもる隊員任命式」開催

日時：2026年3月8日(日) 13:00～
場所：本町公園(和歌山市北桶屋町7)
※同日開催のてとこと市会場にて
内容：任命書・隊員証の授与をはじめ、環境漫才、子どもたちによるビーチクリーンの歌などのエンタメもあります♪



うみわかまもるプロジェクト公式 HP
<https://umiwaka.net/>

食べる と 暮らす アイデアをシェアするコミュニティ 「和歌山 食と暮らしプロジェクト」

様々なもの・ことを循環するイベントを開催
「わかやま循環計画 DAY」

日時：2026年3月8日(日) 11:00～16:00
場所：本町公園(和歌山市北桶屋町7)
※同日開催のてとこと市会場にて



和歌山 食と暮らしプロジェクト note
<https://note.com/foodandlivingpj>

お問い合わせ、詳しくは県センターまで mail: wenet@wenet.info FAX: 073-499-4752

和歌山県環境ポータルサイト <https://wakayama-kankyo-portal.com/>

環境問題や県の取り組み等の情報を発信するサイトです。ぜひご覧ください。



県センター通信

生成AIは日本でも急速に普及し、仕事だけでなく日常生活でも身近で便利な道具として使われるようになってきました。私もその生成AIを活用する一人です。読者である「推進員」の皆さんの中にも、すでに生成AIを活用している方は少なくないでしょう。ここでは、推進員の皆さんの活動に役立つ、現場や日常生活でも活かせる生成AIの使い方を紹介します。

例えば温暖化関連で「〇〇とは何ですか?」と生成AIに尋ねると、分かりやすい説明が返ってきます。すぐに活用できますが、さらに問いを重ねてみてください。例えば、質問文に「**■**の視点から調べてください」と一文加えるだけで、回答は大きく変わります。さらに、推進員として心がけたい点や注意が必要な伝え方を生成AIに整理してもらえます。「気候変動対策を行わなかった場合、**●●**はどうなりますか?」と問い、**●●**を「物価」「市民生活」「食の安全」「中小企業経営」などに置き換えると、相手の関心に沿った伝え方がかえてきます。生成AIは単なる検索装置ではなく、一緒に考えを整理してくれる思考の相棒なのです。

